

## (7) 北 陸



北陸地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は高水準で推移している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)

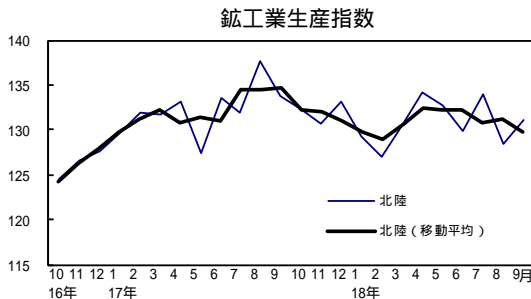
### 前回からの主要変更点

	前回(平成30年8月)	今回(平成30年11月)	
住宅建設	増加	おおむね横ばい	

## 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は高水準で推移している。

7 - 9月期には、電子部品・デバイス、スマートフォン向けが減少したことにより減少した。化学は、医薬品が増加したことにより増加した。はん用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置等が減少したことにより減少した。繊維は、増加した。金属製品は、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	20.8	4.2	3.7	2.4	4.9	0.8
化学	13.5	10.8	4.8	9.0	6.8	9.2
はん用・生産用・業務用機械	12.7	6.8	5.0	7.0	2.9	9.8
繊維	8.4	2.3	1.1	0.2	0.5	3.2
金属製品	6.0	5.0	0.6	1.2	0.2	0.1
鉱工業	100.0	2.6	0.8	3.2	4.1	2.1

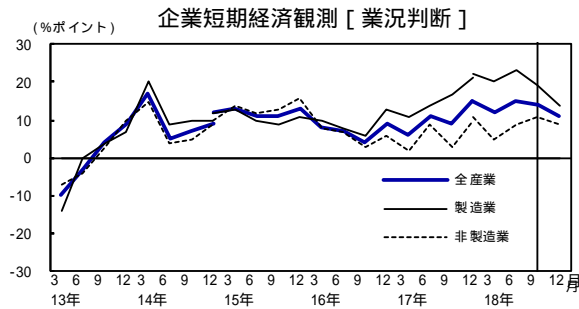
(備考) 1. 2010年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。  
2. 北陸の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 7 - 9月期、9月は速報値。

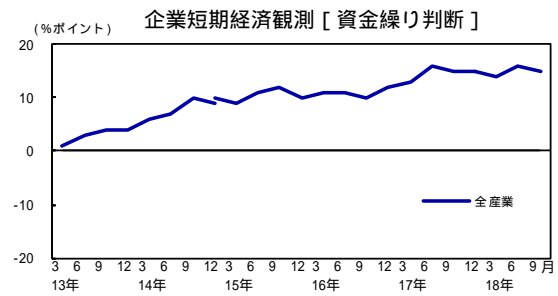
(7) 北陸

(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

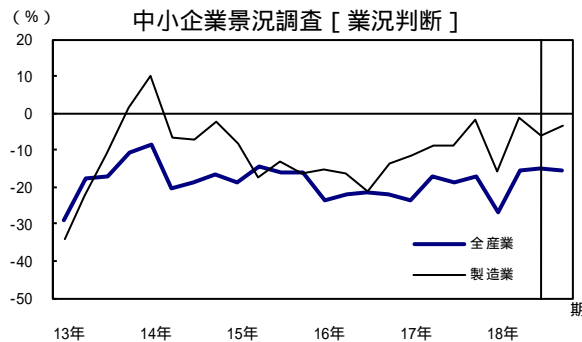
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。2018年12月は予測。2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

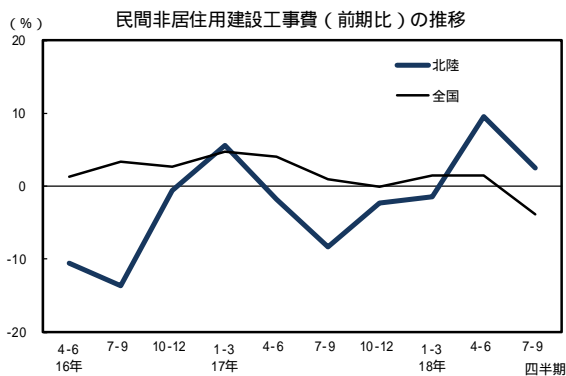


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。2018年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「取引先小売店の売上はおしなべて好調だが、力強く伸長しているとまではいえない。売上の種類でいえば、全体に富裕層向けの高額品を扱う部門が好調という印象がある。一方で取引先メーカーは、全般的な利益押し下げ要因として、資材や燃料の価格上昇が少しずつ効いてきた印象を受ける(金融業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



(備考)1. 季節調整値。

2. 2018年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で掛増展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	2017年度実績	2018年度計画
全産業	18.1	9.4(0.5)
製造業	28.8	10.2(0.1)
非製造業	4.7	8.4(1.2)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

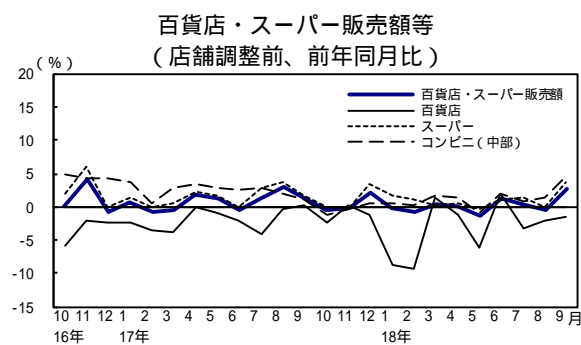
7月は前月比1.3%減、8月は同0.9%増、9月は同1.2%減となった。

百貨店・スーパー販売額

7月は、飲食料品や、高額品などに好調な動きがみられ、前年を上回った。8月は、飲食料品や高額品などに動きがみられるものの、衣料品などが振るわず、スーパーの店舗数減少もあり、前年を下回った。9月は、衣料品の苦戦は続いているものの、飲食料品や百貨店の高額品などが好調に推移し、新規開店効果もあり、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「週末は紅葉を楽しむ観光客などにより、まずまずの状況である。ただし、平日は静かでタクシー利用客が少なく、全体としてはやや悪い (タクシー運転手)」などの回答がみられた。



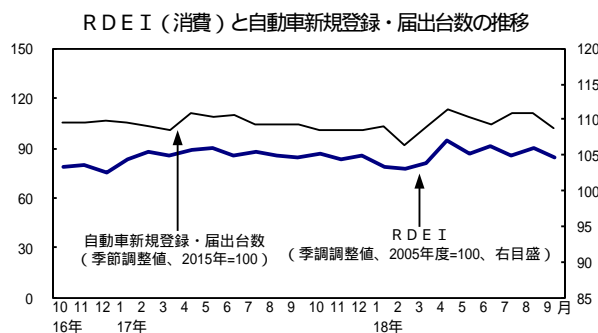
	2018年7-9月	2018年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	1.0	1.3	0.9	1.2
百貨店・スーパー(*2)	0.8	0.5	0.5	2.6
百貨店(*2)	2.3	3.2	2.0	1.5
スーパー(*2)	1.6	1.5	0.1	3.6
コンビニ(*2)	2.2	0.9	1.5	4.5
乗用車(*3)	3.5	8.2	7.0	2.9
(季節調整値)(*3)	0.0	7.3	0.0	8.1

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は前年に比べておおむね横ばいとなっている。

持家が前年を上回ったものの、分譲が下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は2018年度累計で見ると前年度を上回っている。

